

英語リーディング熟達度テストにおける「総合問題」の妥当性の検証

岐阜県／岐阜県立土岐紅陵高等学校 教諭 伊佐地 恒久

概要

本研究では、英語リーディング熟達度テストにおける「総合問題」の妥当性を、受験者が問題に解答する際のプロセスを分析することによって検証した。具体的には、英検3級及び準2級の読解問題と、それらと同じ英文から作成した「総合問題」に受験者が解答するために用いたストラテジーを、Written Recall と Retrospective Interview の2種類の方法によって調査した。そこから得られた報告を分析し、3つの仮説に基づいて問題の妥当性を検証した。その結果、「総合問題」を解く際、多くの受験者は、(1) 英文全体は読まないで、設問に解答するために必要な部分にだけ目を通すこと、(2) 設問に解答するために、多くの場合1文以下という極めて局所的な範囲の英語しか読まないこと、がわかった。これらの点から、「総合問題」は英語リーディング熟達度テストとして不適当であることが実証された。「総合問題」には、英文の内容理解を問う問題と、文法・語法、発音などそれ以外の問題が含まれるが、文法・語法、発音などの問題は、別の大問の中で出題されるべきである。

1 研究の背景

英語リーディング熟達度テストは、受験者の英語リーディング力を正確に測ることを目的としている。中学校や高等学校などにおける読解問題の中で、「総合問題」が多く出題されている。若林・根岸(1993)を参考にしつつ、静(2002, pp.93-114)は「総合問題」を、「1つの『長文』の中で、『発音の知識』、『語法の知識』、『文法の知識』、『内容把握』など複数の『知識』やら『スキル』やらを測ろうとする問題」と、更に詳しく定義し、その問題点と改善策を提示して

いる。

テスト受験者が正解を導き出すために用いるストラテジーは、テスト・テイキング・ストラテジー(test-taking strategies)と呼ばれ、「主に language use strategies に依存するもの」と「主に test-wisness strategies に依存するもの」の2つに分類される(Cohen, 1998, p.230)。前者は、英文の内容を理解することによって正解を得ようとするストラテジーであり、後者は、英文の内容以外を手がかりとして正答を得ようとするストラテジーである。Allan(1992)は、test-wisness をさらに限定した意味で「必ずしも英文の内容を知ることやテストされているスキルを使用することなしに、多肢選択式のテストにおける正しい選択肢を選ぶためのテスト・テイキング・ストラテジーを用いる能力」と定義し、「test-wisness はテストの妥当性を下げるものである」と述べている。test-wisness が正解を得るために有効に働く問題は、受験者の英語リーディング力を測ってはならず、妥当性が低い不適切な問題だと言わなくてはならない。

では、実際に「総合問題」において、受験者はどのようなテスト・テイキング・ストラテジーを用いて解答しているのだろうか。この問題形式について理論的な問題点の指摘(若林・根岸, 1993; 静, 2002)はあっても、実証的に妥当性を検証した研究は見られない。本研究は、この点について検討することを目的とする。

2 研究の目的

本研究では、静(2002)が望ましいとしている問題形式と合致している英検の2種類の読解問題(内

容一致・空所補充), 及びそれらと同一の英文から作成した「総合問題」に受験者が取り組むプロセスを、受験者が使用したテスト・テイキング・ストラテジーから検証する。そして、その結果から、英語リーディング熟達度テストにおける「総合問題」の問題点を明らかにすることを目的とする。

3 研究方法

3.1 仮説

仮説1: 「総合問題」では、英文の内容理解をめざしたストラテジーの使用割合は、本研究で使用する他の2タイプの読解問題よりも低い。「総合問題」には、英文の内容理解を必要としない設問が多く含まれるためである。

仮説2: 「総合問題」では、他の2タイプの読解問題よりも test-wiseness に依存したストラテジーの使用割合が高く、また正答に結びつく割合が高い。静 (2002) が指摘している、英文が下線や空所によってずたずたにされていることによる、「総合問題」の「ミニクサ」と「ヤリニクサ」に効果的に対処するためである。

仮説3: 「総合問題」では、受験者が設問に解答するために目を通す英語の範囲は局所的である。「総合問題」の設問は、英文全体の意味の流れについて問うことはないと思われるためである。

3.2 実験参加者

岐阜県立土岐紅陵高等学校2年生英語Ⅱ選択者3クラス計113名と3年生リーディング選択者3クラス計79名を対象に、2003年9月から12月にかけて実験を実施した。本校の4年制大学及び短期大学への進学率は約25%で、全国平均の約半分である。中学時代から英語が苦手で、英語を読むことに対して抵抗感を持つ生徒が多い。

3.3 調査材料

受験者数が日本で最も多い英語熟達度テストであり、高等学校でも広く利用されている「実用英語技能検定試験」(英検)の読解問題を扱うこととした。本校生徒の現状から、3級と準2級の問題を使用した。

1998年度第1回から2003年度第1回までの15回分の英検3級の読解問題(説明文: 内容一致, 以下、「内

容一致」)と準2級の読解問題(空所補充)を検討した。実験参加者である生徒が過度の負担を感じないように、問題文の語数は少なめで、リーダビリティは低めで読みやすく、題材は生徒が身近に感じられるものを選んだ。以上の基準から判断して、実験で使用する読解問題を以下のように決定した。

3級(内容一致) : 2003年度 第1回

準2級(空所補充) : 2002年度 第2回

これらの読解問題の英文から「総合問題」を作成した(資料1)。「総合問題」の設問は、典型的なものとして、「発音問題」、「空所補充(熟語; 文法・語法)」、「前方照応関係」、「語句の並べ替え」、「英文和訳」の6問とした。「総合問題」の作成は、英語科や他教科の先生方の協力を得て行った。1人の生徒が解答した読解問題は、1題のみである。

3級は2年生、準2級は3年生を対象に実施することとしたが、実施時期の調整が困難であったので、3.4.2で述べるように、計画を一部変更して実施した。

3.4 調査手順

3.4.1 Written Recall

Cohen (1984) は Written Recall について、「書く過程で失われる情報もあるが、多くの参加者からデータが得られる」と述べている。できるだけ多くのデータを得るため、本実験では Written Recall を採用した。読解問題を全部解いた後、それに続いて、どのように英文を読み問題に解答したかを記述するよう求めた。このような記述を求めることは、あらかじめ知らせておいた。本当のテストではないが、真剣に取り組むこと、また正直にできるだけ詳しく書くよう指示した。

3級を2年生、準2級を3年生対象に実施した。各クラスで「読解問題」と「総合問題」を、ほぼ同数の生徒にランダムに配分した。ただし、「総合問題」の Retrospective Interview を実施した参加者は除外した。同一の英文を読むことになるためである。「読解問題」の Retrospective Interview を実施した参加者は、3.4.2で述べる計画の一部変更のため、別の級の英文を読むことになるので実施対象に含めた。

3.4.2 Retrospective Interview

Cohen (1998, p.53) は、「タスクに取り組んでいる最中に verbal report を課すことは、タスクの結果にそ

の影響が出る恐れがあると批判されてきた」と述べている。実験参加者が英語が苦手な高校生であることを考えると、テスト問題に取り組んでいる際に think-aloud を行うことが結果へ及ぼす影響は大きいと思われる。また、生徒たちを think-aloud に慣れさせることがかなり困難だと考えられたので、調査方法として Retrospective Interview を採用することとした。読解問題に解答の直後、どのように英文を読み、問題に解答したかを面接者（筆者）に話すよう求めた。実施の手順は、Farr, Pritchard, & Smitten (1990)、伊佐地 (2004)、Yi'an (1998) などを参考にして、(1) リラックスした雰囲気で行うこと、(2) 本番前に、易しい問題で interview の練習をして、参加者を慣れさせること、(3) probes（発話を促す質問）は、できるだけ open-ended なものとする、などに注意し、参加者が自分から進んで、できるだけ多く話すことができるよう心掛けた。これらに加えて、本当のテストではないが真剣に取り組むこと、また正直にあるがままを話すよう告げた。

3.3で述べたように、計画では、3級（内容一致；総合問題）は2年生に、準2級（空所補充；総合問題）は3年生に対して実施することにしていたが、実施時期の調整が困難であったので、計画を一部変更して、3級（内容一致）を3年生に、準2級（空所補充）を2年生対象に実施した。その際、学年による熟達度の違いを考慮し、2年生は定期考査で平均以上の点数を取っている生徒を中心に実施し、逆に3年生はあまり上位の生徒を対象に含めないようにした。総合問題（3級）は2年生対象に、総合問題（準2級）

は3年生を対象に、計画通り実施した。

「総合問題」は、Written Recall とは別の参加者を対象に実施した。同一の英文を読むことになるためである。「読解問題」は、Written Recall を実施した参加者も含めた。計画の一部変更のため、別の級の英文を読むことになったためである。

3.4.3 テスト・テイキング・ストラテジーの分類表

「多肢選択式の英語リーディング熟達度テストにおけるテスト・テイキング・ストラテジーの分類表」は、伊佐地（2004）の中で、Anderson（1991）、Cohen（1998）、Nevo（1989）と予備実験の結果から作成された表をもとにした。Cohen（1998）を参考に、主に language use strategies に依存するものを「タイプA」、主に test-wiseness strategies に依存するものを「タイプB」としてある。大問の形式の違いに対応するために、本研究における予備実験の結果に基づいて、一部修正を加えた（表1）。

『総合問題』におけるテスト・テイキング・ストラテジーの分類表については、予備実験の結果に基づき、まず仮の分類表を作成した。その後、Written Recall と Retrospective Interview の結果の一部を参考にしながら、再検討を加え、完成した。全体を「英文全体を処理するためのストラテジー」（タイプC）と「設問に解答するためのストラテジー」（タイプD）に分けて分類した。表1の「タイプA」、 「タイプB」のストラテジーとほぼ同じプロセスのものは、（ ）内にそれを示した。主に test-wiseness strategies に依存するものには、“#” を付した（表2）。

■ 表1：多肢選択式の英語リーディング熟達度テストにおけるテスト・テイキング・ストラテジーの分類

A：主に英文の内容理解をめざしたストラテジー	
A- 1	まず始めに、英文全体に目を通す。
A- 2	まず始めに、質問文と選択肢に目を通し、英文を読む際、設問に解答することに注意を向けられるようにする。
A- 3	英文を始めから順に読みながら、区切りごとに設問を解いていく。
A- 4	英文を読んで理解した内容に基づいて、正解の選択肢を選ぶ。
A- 5	設問に解答するために必要な部分の英文を再度読み、内容を確認する。
A- 6	設問の内容について述べてある部分を探しながら英文を読み、該当する部分を詳しく読んで正解を選ぶ。
A- 7	選択肢に目を通す前に、自分で質問に対する答えを作る。
A- 8	英文全体の流れから正解の選択肢を選ぶ。
A- 9	英文の一部に書かれている内容から推論して選択肢を選ぶ。
A-10	背景知識を活用して、解答する。
A-11	（ ）の前後の文脈から正解の選択肢を選ぶ。

B：主に test-wiseness を用いて正答を選ぶとするストラテジー

B- 1	質問文の意味は理解しないで、質問文の疑問詞に合う語句を含む文を英文から探す。 (例：When ～? → 時を示す表現を含む文を探す。)
B- 2	質問文の意味は理解しないで、英文の中から、質問文の中の注目すべき語句やその他の質問文に含まれる語句を探し、その辺りから解答するための手がかりを探す。 (注目すべき語句の例：質問文 What did Kate do for the first time last month? の中の last month と first time)
B- 3	質問番号によって、英文のどの辺りから解答の手がかりを探すのかを決める。
B- 4	英文に含まれる語句と同じ語句やよく似た意味を持つ語句を含む選択肢を正解として選ぶ。
B- 5	質問文に含まれる語句を含む選択肢を正解として選ぶ。
B- 6	自分が知っている語句を含む選択肢の中から正解を選ぶ。
B- 7	他の3つよりも長いまたは短い選択肢を正解として選ぶ。
B- 8	正解ではないものを順に除き、残った選択肢を正解とする。
B- 9	選択肢の位置（番号）から正解の選択肢を決める。
B-10	特に理由はなしに、正解の選択肢を選ぶ。
B-11	() を含む文とその前後の文のみ読む。
B-12	() の前後の文に含まれる語と意味的に結びつくと思われる選択肢を正解として選ぶ。
B-13	英語の意味とは関係なく、読んだ響きが自然な英語だと感じられる選択肢を正解として選ぶ。

注) A-11, B-11, B-12は、準2級（空所補充）でのみ使用されと考えられるストラテジー

■表2：「総合問題」におけるテスト・テイキング・ストラテジーの分類

C：英文全体を処理するためのストラテジー

C-1 (A-1)	まず始めに、英文全体に目を通し、内容を理解しようとする。
C-2 (A-2)	まず始めに設問に目を通してから、英文全体を読む。
C-3 (A-3)	英文を始めから読みながら、出てきた順に設問を解いていく。
#C-4	まず始めに設問を読み、解答するのに必要な部分だけ英文を読む。

D：設問に解答するためのストラテジー

D- 1	英文全体に目を通す。
D- 2	設問になっている () や下線部を含むパラグラフ全体を読む。
D- 3	設問になっている () や下線部を含む文とその前後の文を読む。
D- 4	設問になっている () や下線部を含む1文を読む。
D- 5	設問になっている () や下線部を含む句や節を読む。
D- 6	設問になっている () や下線部だけ読む。
#D-7	英文は読まないで、設問だけ見て解答する。
D- 8	設問の語を発音してみる。
D- 9	設問で問われている語彙・文法・語法の知識を思い出して解答する。
D-10	語彙・文法・語法の知識をヒントにして語句を並べ替える。
D-11	どんな意味の英語になるのかを先に考えてから並べ替える。
D-12	下線部を切りのいいところで区切って、和訳する。(例：接続詞の that や関係代名詞など)
D-13	文法・語法に注意して和訳する。
D-14	代名詞の種類（例：人称代名詞）や形（格、単数形・複数形）に注意する。
D-15	語句の意味を中心に、和訳する。
D-16	文脈に沿った解答にする。
D-17	読んだ響きが自然な英語になるよう解答する。

#D-18 (B-8)	正解でないものを順に除き、残った選択肢を正解とする。
#D-19 (B-10)	特に理由なしに解答する。

注) 設問のタイプは、「発音問題」、「空所補充（熟語、文法・語法）」、「前方照応関係」、「並べ替え」、「英文和訳」である。
が付してある C-4、D-7、D-18、D-19 は、主に test-wiseness を用いて解答しようとする戦略である。

3.5 分析方法

3.4.1.と3.4.2.で述べた方法で得られたプロトコルを、表1と表2に基づき、受験者ごと、設問ごとに筆者が分類した。原則的には、受験者が解答を得るのに用いた主な戦略を1回と数えた。ただし、複数の戦略が同じぐらい有効に働いたと判断され、1つに絞りきれない場合は、2つ以上の戦略を含めた。分類は2回ずつ行い、結果が異なった場合は再度検討して分類した。次に、設問ごとに、参加者が使用した各戦略の割合と正答率を算出した。また、3級（内容一致）と準2級（空所補充）では「タイプA」と「タイプB」の各タイプの戦略の割合と正答率を、総合問題（3級）と総合問題（準2級）では、「タイプC」と「タイプD」の戦略の割合と正答率を算出した。ただし、「#」を付したものは別に算出した。設問ごとの戦略の正答率は、戦略使用者の中で何人その設問に正解したかの割合である。大問ごとの得点率は、受験者の得点の、大問の合計点に対する割合である（総合問題：1点×6問=6点満点；内容一致、空所補充：1点×5問=5点満点）。これらの結果から、設問ごとに test-wiseness の有効性を検討した。random guessing により期待される正答率である25%と各設問の戦略の平均正答率を比較して、test-wiseness の有効性を判断した。25%より戦略の平均正答率が高かった場合、

test-wiseness が有効に働いたと判断した。各設問の受験者全体の平均正答率との比較も行った。以上の結果に基づき、仮説について検証した。

4 | 結果

本研究で使用した4題の読解問題について、それぞれ Written Recall を実施した受験者の合計点の平均と Retrospective Interview を実施した受験者の合計点の平均（表3）を、t-検定を用いて比較した。その結果、Written Recall と Retrospective Interview で対象学年が異なった3級（内容一致）と準2級（空所補充）を含むすべての比較において、統計的に有意な差は見られなかった ($p>.05$)。

4.1 大問の形式に対するテスト・テイキング・戦略の割合と得点率

プロトコル分析を進める中で、多くの受験者は、まず大問の形式を見て、どのように英文全体を処理し、設問に取り組んでいくかを決めた後、問題に取りかかることがわかった（資料2）。言い換えると、受験者は、個々の設問が何をどのように問うているのかとは関係なく、大問全体の形式から有効であると判断した戦略を用いて英文（問題文）を処理し、設問に解答していったと言える。

■ 表3：テスト得点結果（Written Recall / Retrospective Interview）

級	3		準2		3		準2	
問題	内容一致		空所補充		総合問題		総合問題	
WR / RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI
N	42	12	32	12	44	12	29	12
平均点	3.31	3.50	2.50	2.25	2.66	2.83	2.24	2.42
得点率 (%)	66.20	70.00	50.00	45.00	44.33	47.12	37.33	40.33
標準偏差	1.33	1.31	1.22	1.22	1.08	1.19	1.35	1.51
満点	5	5	5	5	6	6	6	6

注) WR=Written Recall; RI=Retrospective Interview

4.1.1 3級（内容一致）、準2級（空所補充）

表4は、Written Recall（WR）から得られた3級（内容一致）と準2級（空所補充）の大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーの割合と大問（5つの設問からなり、各1点で計5点）の得点率を示したものである。

3級（内容一致）では、A-2の割合が最も高く、WRで33.33％、RI（Retrospective Interview）で66.67％であった。「タイプA」全体の割合は、WRで64.29％、RIで100.00％と高く、逆に「タイプB」の割合は、どちらの結果においても0.00％であった。「タイプA」のストラテジー使用による得点率は、WR、RIのどちらの結果においても、受験者の平均得点率以上であった。

準2級（空所補充）では、A-3の割合が最も高く、WRで37.50％、RIで91.67％であった。「タイプA」のストラテジーの割合は、WRで50.00％、RIで91.67％とどちらでも半数以上を占めたが、「タイプB」の割合が、WRで31.25％、RIで8.33％を占めた。WRにおける「タイプA」のストラテジー使用による得点率は51.25％で、受験者の平均得点率を超えたが、RIでは43.62％で、平均得点率の45.00％をわずかに下回った。「タイプB」の得点率は、WRでは50.00％で受験者の平均得点率と同じであり、RIでは60.00％と上回った。

■ 表4：大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーの割合と得点率（Written Recall）

TTS	3級（内容一致）		準2級（空所補充）	
	N=42		N=32	
	割合（％）	得点率（％）	割合（％）	得点率（％）
A-1	21.42	73.33	12.50	50.00
A-2	33.33	68.57		
A-3	9.52	80.00	37.50	51.67
A 合計	64.29	71.85	50.00	51.25
B-11			31.25	50.00
B 合計	0.00		31.25	50.00
その他	35.71	56.00	18.75	46.68
回数 / 平均	42/66.20		32/50.00	

注）TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；平均=受験者の平均得点率（％）；その他=無回答、及び使用したストラテジーが判断できなかったもの

4.1.2 総合問題（3級）、総合問題（準2級）

表5は、Written Recall（WR）から得られた総合問題（3級）と総合問題（準2級）の大問形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーの割合と大問（6つの設問からなり、各1点で計6点）の得点率を示したものである。

どちらの大問においても、主に test-wiseness を用いて解答しようとするストラテジーである#C-4の割合がすべてのストラテジーの中で最も高かった。総合問題（3級）のWRでは36.36％、RIでは33.33％を占め、総合問題（準2級）のWRでは41.38％、RIでは58.33％と一層高い割合を占めた。#C-4使用による得点率は、総合問題（3級）のRIで受験者の平均得点率を上回ったが、他ではすべて下回った。「タイプ#C」に属するのは、#C-4だけである。

それぞれカテゴリーは異なるが、test-wisenessの観点で、内容・空所 vs 総合の違いを見てみると、「タイプC」全体の割合は、総合問題（3級）ではWRで38.64％、RIで58.33％と、3級（内容一致）の「タイプA」の割合よりもWR、RIの両方において低かった。また、総合問題（準2級）においても、WRで41.38％、RIで33.33％と、準2級（空所補充）よりも、両方においてWR、RIのどちらにおいても低かった。「タイプC」のストラテジー使用による得点率は、総合問題（3級）のRIでは、45.24％で、受験者の平均正答率47.12％をわずかに下回ったが、他ではどちらの級においても、受験者全体の平均得点

■ 表5：大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーの割合と得点率（Written Recall）

TTS	総合問題（3級）		総合問題（準2級）	
	N=44		N=29	
	割合（％）	得点率（％）	割合（％）	得点率（％）
C-1	11.36	43.33	10.34	33.33
C-2	2.27	66.67	3.45	50.00
C-3	25.00	46.97	27.59	39.58
C 合計	38.64	47.06	41.38	38.89
#C-4	36.36	39.58	41.38	34.72
#C 合計	36.36	39.58	41.38	34.72
その他	25.00	46.97	17.24	40.00
回数 / 平均	44/44.33		29/37.33	

注）TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；平均=受験者の平均得点率（％）；その他=無回答、及び使用したストラテジーが判断できなかったもの

率を上回った。

4.2 設問ごとのテスト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率

4.2.1 3級（内容一致）、準2級（空所補充）

表6は3級（内容一致）の設問に対して、表7は準2級（空所補充）の設問に対して、それぞれ Written Recall（WR）から得られた受験者が使用したテスト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率を示している。

3級（内容一致）では、「タイプ A」のストラテジー全体の割合は39.53%から65.12%で、正答率は、すべての設問で受験者の平均正答率を上回った。「タイプ B」のストラテジー全体の割合は27.91%から44.19%であり、Q4では「タイプ A」の割合を上回ったが、他ではすべて下回った。「タイプ B」の正答率は、すべての設問で受験者の平均正答率を下回ったが、25%は上回った。Retrospective Interview（RI）

においても、ほぼ同様の結果が得られた。

準2級（空所補充）では、「タイプ A」のストラテジーではA-11がほとんどすべてで、全体の中で31.25%から78.13%を占めた。「タイプ A」のストラテジー全体としての正答率は、5つの設問のうち2問（Q1, Q4）では受験者の平均正答率を上回ったが、3問（Q2, Q3, Q5）で下回った。「タイプ B」のストラテジー全体の割合は、15.63%から43.75%であり、Q3では「タイプ A」の割合を上回ったが、他では下回った。正答率は、5問中3問（Q1, Q4, Q5）では受験者の平均正答率を下回ったが、2問（Q2, Q3）では、上回った。すべての設問で、25%を上回った。RIの結果も WR の結果をほぼ支持するものであった。

4.2.2 総合問題（3級）、総合問題（準2級）

表8は総合問題（3級）の設問に対して、表9は総合問題（準2級）の設問に対して、それぞれ Written Recall（WR）から得られた受験者が使用したテス

■ 表6：受験者が使用した設問ごとのテスト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率：3級（内容一致）（Written Recall）N=42

TTS	Q1		Q2		Q3		Q4		Q5	
	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)
A-1	2.27	100.00								
A-3					2.33	100.00				
A-4	11.36	100.00	13.95	100.00	13.95	66.67	9.30	28.57	6.98	100.00
A-5	13.36	100.00	11.63	80.00	9.30	100.00	9.30	100.00	9.30	50.00
A-6	31.82	78.57	34.88	93.33	32.56	85.71	20.93	77.78	16.28	57.14
A-8			2.33	100.00					16.28	85.71
A-9			2.33	0.00						
A 合計	59.09	88.46	65.12	89.29	58.14	84.00	39.53	88.24	48.84	71.43
B-1	2.27	0.00	2.33	0.00	2.33	0.00	2.33	0.00	2.33	0.00
B-2	4.55	50.00	2.33	100.00	23.26	30.00	2.33	100.00	2.33	0.00
B-3	2.27	100.00							4.65	50.00
B-4	13.36	50.00	13.95	66.67	9.30	12.50	16.28	71.73	18.60	50.00
B-5							2.33	0.00		
B-6									2.33	100.00
B-8									2.33	100.00
B-9					2.33	0.00	2.33	0.00		
B-10	9.09	50.00	9.30	50.00	2.33	0.00	18.60	25.00	9.30	25.00
B 合計	31.82	50.00	27.91	58.33	41.86	33.33	44.19	42.11	41.86	44.44
その他	9.09	25.00	6.98	66.67	0.00		16.28	28.57	9.32	100.00
回数 / 平均	44/69.05		43/78.57		43/61.90		43/57.14		43/64.29	

注）TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；平均=受験者の平均得点率（%）；その他=無回答、及び使用したストラテジーが判断できなかったもの

■ 表7：受験者が使用した設問ごとのテスト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率：準2級（空所補充）（Written Recall）N=32

TTS	Q1		Q2		Q3		Q4		Q5	
	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)
A-8			3.13	0.00						
A-11	78.13	88.00	59.38	36.84	31.25	40.00	43.75	57.14	40.63	30.77
A 合計	78.13	88.00	62.50	35.00	31.25	40.00	43.75	57.14	40.63	30.77
B-6							3.13	0.00		
B-8	3.13	0.00			3.13	100.00			3.13	0.00
B-10	3.13	0.00	15.63	60.00	34.38	45.45	15.63	40.00	12.50	25.00
B-12	6.25	100.00	6.25	100.00	6.25	50.00	6.25	50.00	6.25	50.00
B-13	3.13	0.00								
B 合計	15.63	40.00	21.88	71.43	43.75	50.00	25.00	37.50	21.88	28.57
その他	6.25	0.00	15.63	40.00	25.00	50.00	31.25	40.00	37.50	50.00
回数 / 平均	32/75.00		32/43.75		32/46.88		32/46.88		32/37.50	

注) TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；平均=受験者の平均得点率(%)；その他=無回答、及び使用したストラテジーが判断できなかったもの

■ 表8：受験者が使用した設問ごとのテスト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率：総合問題（3級）（Written Recall）N=44

TTS	空所補充：文・語 (Q1)		英文和訳 (Q2)		発音 (Q3)		前方照応 (Q4)		空所補充：熟語 (Q5)		並べ替え (Q6)	
	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)
D-2	1.92	100.00	1.89	0.00			1.56	100.00			3.92	50.00
D-3	7.69	75.00	7.55	25.00			14.06	33.33			1.96	0.00
D-4	11.54	83.33	13.21	42.86	2.17	100.00	31.25	65.00	4.44	0.00	11.76	66.67
D-5	3.84	50.00										
D-6			3.77	50.00					2.22	0.00	1.96	0.00
D-8					65.22	76.67						
D-9	36.54	52.63							26.67	25.00	1.96	100.00
D-10											31.37	50.00
D-11											9.80	40.00
D-12			3.77	50.00								
D-13			5.66	100.00								
D-14							3.13	0.00				
D-15			24.53	0.00								
D-16	1.92	100.00	1.89	0.00			28.13	83.33				
D合計	59.62	64.52	62.26	27.27	67.39	77.42	78.13	64.00	33.33	20.00	62.75	50.00
#D-7					4.35	100.00						
#D-17	5.77	100.00									3.92	50.00
#D-18	1.92	0.00			6.52	100.00						
#D-19	15.38	87.50					1.56	0.00	11.11	0.00	9.80	40.00
#D 合計	26.92	78.57	0.00		10.87	100.00	1.56	0.00	11.11	0.00	13.73	42.86
その他	13.46	71.43	37.74	15.00	21.74	100.00	20.31	23.08	55.56	4.00	23.53	16.67
回数 / 平均	52/68.18		46/18.18		46/84.09		64/45.45		45/9.09		51/40.91	

注) TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；平均=受験者の平均得点率(%)；その他=無回答、及び使用したストラテジーが判断できなかったもの；空所補充：文・語=空所補充：文法・語法

■ 表9：受験者が使用した設問ごとのテスト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率：総合問題（準2級）
（Written Recall）N=29

TTS	空所補充：文・語 (Q6)		英文和訳 (Q4)		発音 (Q2)		前方照応 (Q5)		空所補充：熟語 (Q1)		並べ替え (Q3)	
	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)	割合 (%)	正答率 (%)
D-2			3.03	100.00								
D-3			9.09	0.00			51.06	66.67	5.71	100.00	6.98	33.33
D-4	5.41	100.00	3.03	0.00	12.12	50.00			5.71	0.00	20.93	0.00
D-5											2.33	0.00
D-6			6.06	50.00					5.71	100.00	2.33	0.00
D-8					72.73	33.33						
D-9	32.43	75.00			3.03	100.00			57.14	85.00		
D-10											41.86	0.00
D-11											4.65	0.00
D-12			3.03	0.00								
D-13			3.03	100.00								
D-14							4.26	100.00				
D-15			33.33	27.27								
D-16							34.04	81.25				
D 合計	37.84	78.57	60.61	30.00	87.88	37.93	89.36	73.81	74.29	80.77	79.07	2.94
#D-7	18.92	57.14			6.06	50.00			2.86	100.00		
#D-17	5.41	100.00										
#D-18					3.03	100.00						
#D-19	10.81	0.00							2.86	0.00	13.95	0.00
#D 合計	35.14	46.15	0.00		9.09	66.67	0.00		5.71	50.00	13.95	0.00
その他	27.03	20.00	39.39	0.00	3.03	0.00	10.64	40.00	20.00	14.29	6.98	0.00
回数 / 平均	37/41.38		33/13.79		33/37.93		47/62.07		35/65.52		43/3.45	

注）TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；平均=受験者の平均得点率(%)；その他=無回答、及び使用したストラテジーが判断できなかったもの；空所補充：文・語=空所補充：文法・語法

ト・テイキング・ストラテジーの割合と正答率を示している。

D-1からD-6と #D-7は、受験者が設問を解く際にどの範囲の英文に目を通したかを示している。D-1（英文全体）は、総合問題（3級）と総合問題（準2級）のすべての設問で使用が全くなかった。また、各設問に共通して、D-2（パラグラフ）の割合も低く、3級で0.00%から3.92%、準2級では、Q4で3.03%であった以外はすべて0.00%であった。

主に test-wiseness を用いて解答しようとするストラテジーである「タイプ #D」のストラテジーは、3級、準2級の両方において、「英文和訳」の設問（3

級Q2；準2級Q4）では全く見られなかった。「前方照応」の設問でも、3級Q4で1.56%、準2級Q5で0.00%と極めて低い割合であった。他の設問における「タイプ #D」の割合は、3級で10.87%から26.92%、準2級で5.71%から35.14%であり、3級（内容一致）、準2級（空所補充）と比較して全体的に低かった。「タイプ #D」のストラテジーの正答率は、3級で6問の設問のうち3問（Q1、Q3、Q6）、準2級では2問（Q2、Q6）が受験者の平均正答率を超えた。

RI から、これらの点を支持する結果が得られた。

5 | 考察

5.1 大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーについて

大問の形式の中で、各ストラテジーごとに、使用率が最も多いものについて以下考察する。

4.1で述べたように、受験者が大問の形式から判断して、実際に設問に取りかかる以前に使用を決めたストラテジーがあった。Phakiti (2003) は metacognitive strategies を2つに分類し、その1つを planning strategies と呼び、「テスト受験者が、問題を解く前に全体を概観し、問題を解くために何をいつどのようにすることが必要か、という方針を定めること」としている。本研究においても、これに類したストラテジーが用いられたと言える。

3級（内容一致）は、英文を読み、質問文に続く4つの選択肢から正解を選ぶ形式であるが、A-2（始めに質問文と選択肢に目を通す）の割合がより高かった（33.33%）。この形式の大問は、あらかじめ質問文と選択肢に目を通すことによって、英文を読む際に注意すべきポイントを知ることができるためであると思われる。

準2級（空所補充）は、英文を読み空所に入れるのに適した語句を4つの選択肢から選ぶ形式であるが、A-3（順に英文を読み、区切りごとに解く）の割合が最も高かった（37.50%）。この形式の問題では、あらかじめ選択肢に目を通して、空所の前後の文脈を理解することなしには、内容を読み取るヒントになりにくいのだと思われる。

総合問題（3級）と総合問題（準2級）では、#C-4の割合が最も高かった（3級：36.36%，準2級：41.38%）。「総合問題」は英文の内容理解を必要としない設問を含むため、あらかじめ設問を見て、解答するのに必要と判断した部分の英文にのみ目を通した受験者が多かったと推察される。

以上のように、大問の形式により、受験者はどのように問題に取り組んでいくのかというプロセスを決めると言える。テスト問題を作成の際、一つ一つの設問について検討するだけでなく、大問の形式とそれに伴うプロセス、そして、設問が測ることを意図している能力との対応についても検討することが問題の妥当性を高くするために必要だと言える。

5.2 3級（内容一致）と準2級（空所補充）における設問の妥当性について

4.1.1で述べたように、3級（内容一致）では、受験者が使用した大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーは、すべて「タイプ A」であり、その得点率は受験者の平均得点率以上であった。言い換えると、受験者は、この問題に取り組む際、test-wiseness に頼るよりは、英文の内容を理解することによって解答し、成功したということである。4.2.1で述べたように、「タイプ A」のストラテジー全体の正答率は、すべての設問で受験者の平均正答率を上回った。「タイプ B」のストラテジー全体の正答率は、すべての設問で25%は上回ったが、受験者の平均正答率は下回った。これらの点から、本研究で使用した3級（内容一致）は一定の妥当性があると考えられる。

4.1.1で述べた結果から、準2級（空所補充）においては、受験者が使用した大問に対するテスト・テイキング・ストラテジーでは、「タイプ A」使用による得点率は「タイプ B」使用による得点率をわずかに上回る Written Recall (WR) か、「タイプ B」の得点率の方が高かった Retrospective Interview (RI)。言い換えると英文の内容を理解することによって解答しようとした受験者と主に test-wiseness を用いて解答しようとした受験者で、その得点にあまり差がなかったということである。

また、4.2.1で述べたように、準2級（空所補充）では、WRにおいて、5つの設問のうち3問（Q2, Q3, Q5）で「タイプ A」の正答率が受験者の平均正答率を下回り、「タイプ B」の正答率が2問（Q2, Q3）で受験者の平均正答率を上回った。これらの点から、本研究で使用した準2級（空所補充）に関しては、十分な妥当性は確認できなかった。

その理由を考察してみると、準2級（空所補充）の平均得点率は WR で50.00%，RI で45.00%と、3級（内容一致、WR：66.30%，RI：70.00%）と比較してかなり低い。また、Q2, Q3, Q5は、大問の中で受験者の平均正答率が低い3問である。受験者にとってより難しい問題では、内容理解をめざしたストラテジー（タイプ A）の成功率が低下すると考えられる。その一方で、test-wiseness を用いたストラテジーの有効性は、内容を理解する必要がないのであまり低下しないのではないだろうか。そのため、受験者にとって難しい問題では、相対的に test-wiseness を用

いたストラテジーの有効性が高くなると考えられる。伊佐地（2004）でも、同様の指摘をしている。

ただ、Q5（WR）においては、「タイプ B」の正答率（28.57％）が受験者の平均正答率（37.50％）を下回っている。これは、B-10（特に理由なし）の正答率（25.00％）が低かったためであると思われるが、その原因に関しては、B-10についての、より一層の研究が必要であると思われる。

英語熟達度が高い受験者を対象に実施すれば、異なった結果が出る可能性があると思われる。

5.3 仮説1の検証

■ 表10：大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーのタイプ別割合（％）

（Written Recall / Retrospective Interview）

調査方法	ストラテジーのタイプ	3級		準2級	
		内容一致	総合問題	空所補充	総合問題
WR	タイプ A / C	64.29	38.64	50.00	41.38
RI		100.00	58.33	91.67	33.33
WR	タイプ B / #C	0.00	36.36	31.25	41.38
RI		0.00	33.33	8.33	58.33

注）タイプ A / C＝主に英文の内容理解をめざしたストラテジー

タイプ B / #C＝主に test-wiseness を用いて解答しようとするストラテジー

表10は4.1.1と4.1.2で述べた結果をもとに、大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーのうち、主に英文の内容理解をめざすストラテジーである「タイプ A」（3級：内容一致；準2級：空所補充）と「タイプ C」（総合問題：3級，準2級）の割合を、級ごとに Written Recall と Retrospective Interview の結果に分けて示している。すべての組み合わせで、英文の内容理解をめざすストラテジーの割合は「総合問題」の方が低かった。このことは、仮説1（「総合問題」では、英文の内容理解をめざしたストラテジーの使用割合は、本研究で使用する他の2タイプの読解問題よりも低い）を支持している。

5.1で述べたように、「総合問題」には内容理解が必要ない設問が含まれていることから、受験者の多くは大問の形式を見て、設問を解くために必要な部分だけ英文を読むというプロセスをとる傾向があったと考えられる。

5.4 仮説2の検証

表10が示しているように、大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーのうち、主に test-wiseness を用いて正答を得ようとするストラテジーである「タイプ B」（3級：内容一致；準2級：空所補充）の割合と「タイプ #C」（総合問題：3級，準2級）の割合を、級ごとに Written Recall と Retrospective Interview の結果に分けて比較した結果、すべての組み合わせで、test-wiseness を用いて正答を得ようとするストラテジーの割合は、「総合問題」の方が高かった。しかし、「総合問題」における「タイプ #C」のストラテジー使用による得点率は、3級 RI 以外では、受験者の平均得点率を下回った。以上の点から、大問の形式に対するテスト・テイキング・ストラテジーに関する結果からは、仮説2（「総合問題」では、他の2タイプの読解問題よりも test-wiseness に依存したストラテジーの使用割合が高く、また正答に結びつく割合が高い）は、ストラテジーの割合については支持されたと言えるが、その有効性については支持されたとはいえない。

また、4.2.1と4.2.2で述べた受験者が使用した設問ごとのストラテジーに関する結果から、主に test-wiseness を用いて正答を得ようとするストラテジー（タイプ B；タイプ #D）の割合を、3級（内容一致）と総合問題（3級），準2級（空所補充）と総合問題（準2級）で比較した。その結果、両方の比較において「総合問題」の方が低かった。「タイプ #D」のストラテジーの正答率は、総合問題（3級）で6問の設問中3問（Q1，Q3，Q6），総合問題（準2級）では2問（Q2，Q6）が受験者の平均正答率を超えた。以上の点から、受験者が設問ごとに使用した test-wiseness を用いたストラテジーに関する結果からは、仮説2は、十分に支持されたとはいえない。

以上の結果から判断して、仮説2は部分的に支持されたと言える。静（2002）の中で示されている「総合問題」の例と比較して、本研究で作成した「総合問題」は、空所や下線部が英文の長さの割に少なく、「ミニクサ」と「ヤリニクサ」は受験者にとって、さほどではなかったのだと思われる。

5.5 仮説3の検証

Isaji（2003）は、読解ストラテジーに関する先行研究をもとに、「全体的」レベルを「パラグラフ以上（パラグラフ，2つ以上のパラグラフ間，英文全体）」

とし、「局所的」レベルを、「パラグラフ内（語、句、節、1文、2文以上でパラグラフ内）」とした。Yamashita（2003）は、gap-filling test に解答する際に受験者が使用した情報を、「節レベル」、「文レベル」、「テキストレベル」に分類し、「テキストレベル」を更に、「直前または直後の文レベル」と「より広い範囲の複数の文レベル」に分けた。仮説3（「総合問題」では、受験者が設問に解答するために目を通す英語の範囲は局所的である）の検証のためには、特に「局所的」なストラテジーを詳しく検討する必要があることと test-wiseness を用いたストラテジー使用についても分析する必要があるために、ここでは、「パラグラフ以上」（D-1、D-2）、「2文以上でパラグラフ内」（D-3）、「1文」（D-4）、「語・句・節」（D-5、D-6）、「その他：英文は読まない」（#D-7）と分類して考察した。ただし、D-1の使用は皆無だったの

で、「パラグラフ以上」は、「（1つの）パラグラフ全体」（D-2）とした。

表2にあった、D-1からD-6と #D-7から、受験者が「総合問題」の設問に解答するために読んだ英文の範囲を推測できる。表11は総合問題（3級）、表12は総合問題（準2級）の結果におけるそれらの割合を、Written Recall（WR）と Retrospective Interview（RI）に分けてまとめたものである。

2つの表から、3級と準2級の「総合問題」において、準2級 Q5（前方照応）と Q4（英文和訳）（WR）では、「2文以上でパラグラフ内」のストラテジーの割合が最も高かったが、準2級 Q4（RI）と2つの級のその他のすべての設問においては、WR と RI のどちらの結果においても、「1文」またはそれ以下の狭い範囲の英語しか読まないストラテジーの割合が最も高かったことがわかる。準2級 Q5（前方照応）で

■ 表11：受験者が設問に解答するために読んだ英文の範囲：総合問題（3級）

（Written Recall / Retrospective Interview）

	設問	空所補充：文・語（Q1）		英文和訳（Q2）		発音（Q3）		前方照応（Q4）		空所補充：熟語（Q5）		並べ替え（Q6）	
		WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI
読む範囲	TTS	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）
パ全体	D-2	1.92		1.89	5.00			1.56				3.92	
2文以上・パ内	D-3	7.69	5.00	7.55	5.00			14.06	18.75			1.96	
1文	D-4	11.54	30.00	13.21	30.00	2.17	4.55	31.25	37.50	4.44	7.69	11.76	22.73
語・句・節	D-5, D-6	3.84	5.00	3.77	20.00				6.25	2.22	15.38	1.96	18.18
英文読まず	#D-7					4.35	45.45				53.85		

注）TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；空所補充：文・語=空所補充：文法・語法
パ全体=パラグラフ全体；パ内=パラグラフ内

■ 表12：受験者が設問に解答するために読んだ英文の範囲：総合問題（準2級）

（Written Recall / Retrospective Interview）

	設問	空所補充：文・語（Q6）		英文和訳（Q4）		発音（Q2）		前方照応（Q5）		空所補充：熟語（Q1）		並べ替え（Q3）	
		WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI	WR	RI
読む範囲	TTS	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）	割合（%）
パ全体	D-2		7.14	3.03									
2文以上・パ内	D-3		7.14	9.09	5.26			51.06	45.45	5.71		6.98	5.56
1文	D-4	5.41		3.03	15.79	12.12				5.71	13.33	20.93	22.22
語・句・節	D-5, D-6		28.57	6.06	26.32		4.76			5.71	13.33	4.65	11.11
英文読まず	#D-7	18.92				6.06	33.33			2.86	6.67		

注）TTS=テスト・テイキング・ストラテジー；空所補充：文・語=空所補充：文法・語法
パ全体=パラグラフ全体；パ内=パラグラフ内

は、代名詞 'they' が示す語である 'lifesavers' が、その前の文にあるため、受験者は2文以上に目を通したのだと思われる。

「パラグラフ全体」のストラテジーの割合は、総合問題（3級）では、2つの設問（Q3, Q5）で、WR と RI の両方で0.00%で、他の設問ではQ6（WR）の3.92%が最も高かった。総合問題（準2級）では、4つの設問（Q1, Q2, Q3, Q5）で WR と RI の両方で0.00%、他の2問ではQ6（RI）の7.14%が最も高かった。

以上のように、「総合問題」では、1文以内の処理が多かったことから、受験者が設問に解答するために目を通す英語は極めて局所的であると判断され、仮説3は支持されたと言える。

6 | まとめ

本研究では、英語リーディング熟達度における「総合問題」の妥当性を、受験者が問題に解答するために用いるテスト・テイキング・ストラテジーから検証してきた。その結果、「総合問題」に取り組む際、(1)多くの受験者は、その形式から判断して、英文すべてを読んで理解しようとはしないで、解答するために必要な部分にのみ目を通すこと、(2)設問に解答するために、受験者が読む英語は主に1文以下であり、極めて局所的であること、がわかった。これらの点から、「総合問題」は、英語リーディング熟

達度テストとしては、不適当であると言える。

英語のテストにおいては、英文の内容理解度をテストする問題と文法・語法、発音などの問題は、別の大問として設定されるべきである。これらが混在する「総合問題」では、局所的な内容理解しか問うことができず、英語リーディング熟達度テストとしてはもちろん、「英語Ⅰ」や「英語Ⅱ」の定期考査の問題としても不適当であろう。

今後の課題として、受験者の英語熟達度や設問の難易度とストラテジー使用の関係をより明確にすることや、特に Written Recall において「その他」の割合をできる限り低くして、受験者がテストに解答したプロセスをより明確にし、データの精度をより高くすることなどが挙げられる。また、今回検討したプロセスの検証は、テストの妥当性検証の一部であり、妥当性の他の側面も検証する必要がある。

謝 辞

実験の実施にご協力いただいた岐阜県立土岐紅陵高等学校英語科の松本義一先生、森川満代先生、「英語Ⅱ」と「リーディング」選択者の生徒諸君、とりわけ放課後、Retrospective Interview のために時間を割いてくれた諸君、さらに草稿に目を通していただいた筑波大学大学院博士課程の小泉利恵さんに感謝いたします。最後になりましたが、本研究の実施の機会を与えてくださった（財）日本英語検定協会の皆様に厚くお礼申し上げます。

参考文献（*は引用文献）

- *Allan, A. (1992). Development and validation of a scale to measure test-wiseness in EFL/ESL reading test takers. *Language Testing*, 9, 101-122.
- *Anderson, N. J. (1991). Individual differences in strategy use in second language reading and testing. *The Modern Language Journal*, 75, 460-472.
- *Cohen, A. (1984). On taking language tests: What the students report. *Language Testing*, 1, 70-81.
- *Cohen, A. D. (1998). *Strategies in learning and using a second language*. NY: Longman.
- *Farr, R., Pritchard, R., & Smitten, B. (1990). A description of what happens when an examinee takes a multiple-choice reading comprehension test. *Journal of Educational Measurement*, 27, 209-226.
- *Isaji, T. (2003). Reading strategies for Japanese high school students who are not good at English. *KATE Bulletin*, 17, 1-11.
- *伊佐地恒久. (2004). Test-Wiseness の観点から見た英語リーディング熟達度テストの妥当性の検証. (投稿中).
- *Nevo, N. (1989). Test-taking strategies on a multiple-choice test of reading comprehension. *Language Testing* 6, 199-215.
- 日本英語検定協会. (2002). 『実用英語技能検定2002年度第2回検定＜一次試験＞全問題&解答』. 東京：日本英語検定協会.
- 日本英語検定協会. (2003). 『実用英語技能検定2003年度第1回検定＜一次試験＞全問題&解答』. 東京：日本英語検定協会.
- *Phakiti, A. (2003). A closer look at the relationship of cognitive and metacognitive strategy use to EFL reading achievement test performance. *Language*

Testing, 20, 26-56.

* 静哲人. (2002). 『英語テスト作成の達人マニュアル』.

東京：大修館書店.

* 若林俊輔・根岸雅史. (1993). 『無責任なテストが「落こばれ」を作る』. 東京：大修館書店.

* Yamashita, J. (2003). Processes of taking a gap-filling

test: Comparison of skilled and less skilled EFL readers. *Language Testing*, 20, 267-293.

* Yi'an, W. (1998). What do tests of listening comprehension test? — A retrospection study of EFL test-takers performing a multiple-choice task. *Language Testing*, 15, 21-44.

資料1：実験で使した「総合問題」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

* 総合問題 (3級)

* 次の英文を読み、以下の設問に答えなさい。

The Battle* of the Oranges

Every year, a little town in Italy has a very interesting festival. The town is called Ivrea, and its festival is called the Carnival of Ivrea. There are many parades and parties, and people make special food, too. But the most (1) () part of the festival is the Battle of the Oranges. For the last three days of the festival, teams of people throw oranges at each other in the streets of the town.

People started the Carnival of Ivrea to remember (2) a battle that happened more than 800 years ago. In 1194, the ruler* of the town was a very bad man. One day, the people of Ivrea (3) (decided) to fight him. They only had stones to throw at the ruler and his soldiers,* but the people fought hard and won the battle.

Now the battle is just for fun, so people don't throw stones anymore. Many teams take part in the orange battles, and each (4) (one) has its own special uniform. Some teams ride on carts* which are pulled by horses. The others have to walk, and they throw oranges at the teams on the carts. (5) () of visitors come to see the orange battles, and some even join a team. People who only want to watch have to wear special red hats. If they don't, everyone throws oranges at them, too.

After the festival, there are (6) [of / clean up / lot / oranges / a / to]. But the people of Ivrea enjoy their festival and are proud of its long and interesting history.

*battle: 戦い *ruler: 支配者 *soldier: 兵士 *cart: 荷車

Q1 [空所補充：文法・語法] (1) ()に入れるのに最も適切な語を、次の4つの中から選び答えなさい。

excite exciting excited to excite

Q2 [英文和訳] 下線部(2)を日本語にきなさい。

Q3 [発音] (3) (decided)の下線部の発音と、下線部が同じ発音である語をア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

decided : ア million イ children ウ musician エ library

Q4 [前方照応] (4) (one) が何を示すのか、英語1語で答えなさい。

Q5 [空所補充：熟語] (5) () of visitors が次の日本語の意味になるように、() に1語入れなさい。

* 何千人もの訪問者

Q6 [並べ替え] (6) [] 中の語句を適切に並べ替えなさい。

*総合問題（準2級）

*次の英文を読み、以下の設問に答えなさい。

Australian Lifesavers

Australia is well known for its beautiful beaches. On warm days, many Australians living along the coast go to the beach to enjoy the wonderful swimming and surfing there. (1) () to the work of lifesavers, the beaches in Australia are some of the safest in the world.

Most lifesavers have spent their whole (2)(lives) near the ocean. People who want to become lifesavers must first get a license known as the Bronze Medallion. In order to do this, they have to take a special course that includes tough physical training. They also learn first-aid* (3) [how / such / techniques / as / to] help people start breathing again after they have almost drowned.

(4) The qualities needed to be a good lifesaver have not changed very much over the years, but some of the equipment used by lifesavers has improved. For example, lifesavers once had to carry wooden boats out to sea in order to save swimmers. Now, however, (5) (they) use light rubber boats that are easier to carry. Because these new boats have motors, they are much faster and can also be used to protect swimmers from sharks by frightening the sharks away from beaches.

The job of lifesaving is open to people of all ages, but it is especially popular with young people. Many children between the ages of 7 and 13 join junior lifesaving clubs. (6) () fine Sunday mornings, these youngsters can be seen training with adult lifesavers. They are getting ready to become the Australian lifesavers of tomorrow.

*first-aid：応急手当の、救急療法の

Q1 [空所補充：熟語] (1) () to が次の日本語の意味になるように、() に1語入れなさい。

*～のおかげで

Q2 [発音] (2) (lives) の下線部の発音と、下線部が同じ発音である語をア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

(2) (lives) : ア children イ wild ウ Britain エ difficult

Q3 [並べ替え] (3) [] 中の語を正しく並べ替えなさい。

Q4 [英文和訳] 下線部(4)を日本語にしなさい。

Q5 [前方照応] (5) (they) が何を示すのか、英語1語で答えなさい。

Q6 [空所補充：文法・語法] (6) () に適当な前置詞を入れなさい。

資料2：受験者が大問の形式から問題に取り組む方針を決めることを示す Retrospective Interview から得られたプロトコルの例

3級（内容一致）

- ・僕は1番の問題を見てから、本文を始めから読みます。問題文と同じような文が出てくるまで読みます。(A-2)

準2級（空所補充）

- ・出題形式が穴埋めだったので、始めからザーと見て、() の周りの文をより丁寧に読んだ。(A-3)

総合問題（3級）

- ・まず問題の種類が下線部訳があるとか、発音があるとかを見て、() の辺りだけ見ていった。(C-4)

総合問題（準2級）

- ・こういう問題形式の時は、最初に問題を見て、() になっているところだけ読みます。(C-4)